

## 第9回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議録

日 時：令和2年1月30日（木） 午後1時30分から午後3時30分

会 場：鳥取市役所 本庁舎6階 第二会議室

出席者：《委員》

山下 恭史 委員長、山下 博樹 副委員長、川口 有美子 委員、河崎 誠 委員、  
田村 康悦 委員、徳本 敦子 委員、松本 公彦 委員、小草 真帆 委員、谷口 稜 委員  
《鳥取市》

行財政改革課／河口課長、谷口係長、藤原主任、岩田主任

---

### 会議内容

#### 1. 開会

##### 谷口係長：

それでは定刻となりましたので、これより第9回行財政改革推進市民委員会を開催いたします。本委員会の設置要綱第5条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」と規定されていますが、本日は全10名のうち9名の方にご出席をいただいておりますので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。では、山下委員長より開会のご挨拶をいただきます。

#### 2. あいさつ

##### 山下恭史委員長：

皆様こんにちは。今年は昨年と同様正月三が日も含めて穏やかな気候でスタートしました。もうすぐ立春ですけれど、大寒を過ぎてから天候不順になったり寒い日が続いております。そのような中で皆様にはお集まりいただきましてありがとうございます。昨年末あたりは、日本も世界の動きにかなり翻弄されていたかなと思います。中東地域の紛争の問題や米中の対立、ブレグジットの問題もありましたけれど、そういった火種を抱えながらも、統計などを見てもそれなりに世界経済も回復しつつあるというところではあります。日本においても大きくはありませんけれどもまあまあ成長を重ねてきているように思います。ただこのところ、日韓の対立の問題があつたりして鳥取県への旅行者が大幅に減ったり、コロナウィルスの問題がさらに拡大しそうな情勢です。こういったことが私たちの生活でありますとか経済にも大きな影響を及ぼしてくる懸念がありますので、国会でも議論はされていますが、是非対策を打っていただいで一日も早く解消されればと思っております。さて、私たちの委員会も第9回目になりまして、これまでの議論の集大成の時期となってきました。前回はヒアリングを行っていただき、さらにその後二次評価票の記入についても追加でお願いし、委員の皆様にお時間を取っていただきました。その結果がまとまっておりますので、これをベースに今日は議論を

して、最終的には3月に市長に報告書を提出という予定になっております。修正の機会は次の第10回の委員会があるんですが、ベースは今日の委員会ではほぼ決定することになると思いますので、是非忌憚のないご意見をいただきまして、良い報告ができればと思っています。よろしくお願いいたします。

### 3. 議事

#### 谷口係長：

ありがとうございました。それでは以後の進行は山下委員長様にお願いいたします。

#### 山下恭史委員長：

はい。今日は次第にあるとおり3つの議事を進めていこうと思っておりますが、その前に、今日の委員会を傍聴したいという要望が事務局にあったようでございます。市の規定によりますと、傍聴については委員会に諮るということになっておりますので、皆様にお諮りします。問い合わせが事務局にあった段階ですので、実際に来られるかどうかはわかりませんが、傍聴については構いませんでしょうか。

#### 委員一同：

(了解)

#### 山下恭史委員長：

ありがとうございます。もし傍聴希望の方が来られましたらお入りいただくことでよろしくお願いいたします。

では本日の議事に入っていきます。二次評価の結果については冒頭にお話ししましたとおり担当課の評価について私たちがそれぞれ評価したものを取りまとめてあります。また外部評価結果の報告書のたたき台を事務局に作成してもらっておりますので、この内容について意見交換をしたいと思っております。それが終わりましたら市政改革プラン(最終案)というものが出てきておりますので、それについて皆様からのご意見があればお伺いしたいと思います。ということでまずは議事(1)の「二次評価の結果及び外部評価結果報告書について」、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

#### 岩田主任：

では本日お配りしてあります資料の二次評価票というものをご覧ください。

(資料「二次評価票(H30年度実績分)」「第6次鳥取市行財政改革大綱実施計画外部評価結果報告書(案)」を説明)

以上、まずは二次評価の結果がこのようになりましたということと、外部評価結果報告書をこういった体裁で作らせていただこうと考えておりますということのご説明をさせていただきました。こちらについて皆様からご意見等いただければと思います。よろしくお願いいたします。

#### 山下恭史委員長：

まず最初にご説明いただいた二次評価票というものについてですが、これは前回の

ヒアリングの後に追加で皆様をお願いしたもので、それをとりまとめたものでございます。コメント欄については、各委員が記入したものを転記いただいたものと思いますが、自分が記載したコメントが入っていないとか、あるいは自分の評価が正しく反映されていない、あるいは表現が分かりにくいということがあればおっしゃってください。まずは1ページ目のところでどうでしょうか。ここではID3のシティセールス戦略プランの策定に「妥当でない」が半分付いています。また、ID8の地区公民館の活用基本方針の策定のところで「妥当でない」が3つ付いております。コメントについては、「妥当である」とされた方はおそらく書かれていないのではと思いますが、特に追加の意見などがあればお願いします。よろしいですか。では2ページ以降もご覧いただき、ご意見等あればお願いします。特に無いようでしたらこの二次評価票は終わりまして、外部評価結果報告書(案)について検討に入りたいと思います。全体の書き方や構成については、前期の委員会で作成した報告書を踏襲しております。その当時は委員の皆様にご意見を伺って、特に異論がありませんでしたのでこのような形式としましたが、これが6次大綱での最終の報告書となりますので、書きぶりを見直した方が良いとかこういった項目も追加したほうが良いといったようなご意見があればいただきたいと思います。まず全体を見ていただきたいのですが、2ページ目はこの委員会の目的や開催の経緯が書いてあります。3ページ目には評価の内容ということで、こういったものを評価しましたという内容が書いてあります。ちなみにこの(2)には個別に担当課と意見交換をしましたということが書かれています。4ページ目は、二次評価では全体を通してこのような感想と言いますか意見があったということがまとめてあります。特に中段の表にあります、指標の設定について、費用対効果について、評価シートの記載内容についてというものは、前期の委員会でもご発言があったものでもございますし、この度もご意見でいただいているものです。これに付け加えるものがあれば入れたいと思いますし、表現としてどうかということがあればまたおっしゃっていただければと思います。それから、個別に担当課と意見交換した内容については5ページ以降になりますが、8ページまでは前回の委員会で議論した内容がそのままですので、特に支障がなければ、あるいは最終的にやっぱりどうかなということがない限りはこのとおりとさせていただきます。今日のこの後の議論は9ページ以降の4つの実施計画についての取りまとめを事務局の方にしていただいておりますので、この内容を中心に、このような書きぶりで良いかということも含めてやっていきたいと思います。では事務局から、9ページ以降を順に説明お願いできますか。

**岩田主任：**

それでは9ページの、放課後児童クラブの運営のあり方の見直しについてご説明いたします。

(資料「第6次鳥取市行財政改革大綱実施計画外部評価結果報告書(案)」P9を説明)

**山下恭史委員長：**

ありがとうございました。ここには担当課ヒアリングをした際の私たちの意見や、やり取りの内容が記載されております。ただ、当日欠席された委員さんもいらっしゃいますし、あるいは言いたかったことが時間的な制約で言えなかったということもあるかと思えます。また、委員がそれぞれ発言しておりますが、委員同士での意見交換ができていない状態でのあくまで案です。最終的には委員会としての意見を総評としてまとめていくということと、資料の下の方にある個別意見等についても、単に個人の主張を羅列するのではなくて若干議論があるかなと思っております。市側に間違った受け取られ方をするのも不本意ですので、ご自分の発言以外のもも含めて、表現を改めた方が良いところなどご意見いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

**川口委員：**

現状の上から3行目のところに、「平成30年度末時点で市内に62クラブが開設されており、」とあって、次の行の「またこのうち52クラブの運営を保護者会に、残りの9クラブの運営をNPO法人に」とあるんですが、足すと61にしかならないので、これを読んだ人はもう1クラブはどういう運営なのかとなってしまうのではないかと思います。それから同じ現状の下3行ほどのところに、4桁の数字の表示方法としてカンマが入っていますが、7ページのところでは4桁の数字にカンマが入っていません。ここはカンマを付けた方が見やすくなると思います。ちなみにこの7ページの総評の「引続き」のきが抜けているので入れられた方が良いかと思います。最後にもう一つ、また9ページのところなんですが、総評の本文の上から3行目に「指導員」という言葉が使われています。ほかは「支援員」という言葉なので統一されるといいと思います。

**山下恭史委員長：**

はい、分かりました。ありがとうございます。前回の議事録では53になっていますよね。

**岩田主任：**

誤りですので修正させていただきます。

**徳本委員：**

質問ですがよろしいですか。個別意見等の4番に「現在の雇用・就労環境を鑑みると、今後民間事業者等への転換が必ずしも円滑に進むとは考えづらく」とありますが、ここでいう就労環境は時給とかの話だったでしょうか。

**山下恭史委員長：**

これは私が書いたので私がお答えします。NPO法人ですとか民間事業者への転換というのが今後あるんだろうと思うんですが、パートタイマー的な雇用形態ということが書いてあったように、働く時間が限られていて、十分な給与や報酬が確保できないということで、必ずしも人がどんどん集まるという状況では今はないという風に思っておりますので、そういう意図で書いております。

**徳本委員：**

具体的に放課後児童クラブだと時給が決まっていると思うんですが。

**山下恭史委員長：**

時給というよりも労働時間として、本当に働きたい人がそこにどんどん入ってくる職種ではないので人集めに苦労するのではないかと、という意味です。例えば 53 クラブのうち 10 クラブでも外部から人を雇ってこようと思っても多分無理だと思うんですよ。

**徳本委員：**

私の住んでいる地域の小学校は小規模校なので子ども教室になるんですが、その支援員さんの時給が 730 円とかなんですよ。最低賃金を切っているんですけど、あくまで有償ボランティアという枠なのでそういう額らしいです。一方で放課後児童クラブの支援員さんの時給は額面までははっきり覚えていませんが、確かもっと高いはずなんです。そのことが今問題になっていて、やはり単純に低い時給では集まらないんです。もう少し時給が良ければ地域の方とかでも来てくれる方はおられるんですが、そもそも働く時間も短いうえに時給が低いとなるとどうしても人材が集まらないという状況が生まれています。それでしわ寄せがいくのが子どもたちなので、改善してあげられたらいいんですけど、どうしてももう少し時給が上がらないのかなとは思っています。

**山下恭史委員長：**

ここについては私個人の考え方なんですけども、保護者の方々が自分の子どもをお互いに協力して面倒見ましょうというのが基本だと思います。ただ保護者も仕事があったりということがいろいろあるので外部の人達による NPO であるとか事業者等を利用してしながらやっていこうということが今後のあり方だと思っています。そうしたときに時給を上げようと思ったら、それを市が全部補填するというのは違うと思います。それは保護者の方々が自分の子どもを預けたいのに受けてくれる人がなかなかいないので、じゃあ自分達の負担を 100 円でも増やそうという声が集まってきたうえで、人を余分に増やそうとか時給を上げようという風にしていくことが基本だと私は思うので、そこは鳥取市がどこかの児童クラブに行き、ここの時給を上げますよということでは無いような気がします。児童クラブがたくさんありますので、その窓口として市が話を受けて、今の相場がこのくらいですから、今後新しい児童クラブをどこかにお願いしようと思ったらこれくらいは出さないといけませんよという、情報の集積は必要だと思いますけれど、クラブ個別に市の方から時給が少ないとか言っていくことは難しいのではないかなと思います。

**徳本委員：**

例えば小規模校の保護者が意見をまとめて市に提出したら受け入れてもらえる可能性があるということでしょうか。

**山下恭史委員長：**

そこまでは私の方ではお答えできる立場にはないんですが、以前お話を伺ったとき

に、そういう意見を取りまとめて市に提出しているということがなかったでしたっけ。

**岩田主任：**

保護者会のご意見を、要望書という形で担当課に上げられていたと思います。

**山下恭史委員長：**

ちなみに今のご意見は NPO とか事業者の立場でのものですか、それとも保護者さんとしての立場のものですか。

**徳本委員：**

今は保護者の立場での意見です。

**山下恭史委員長：**

なるほど。そうすると、例えば支援員が足りていなくて、保護者間でもっとお金を出せば来てくれるということであれば、そのように保護者同士で話をして一人ひとりの拋出を増やすとか、あるいは鳥取市の方に補助金を増やしてもらうように要望していくというのも手かなとは思いますがね。

**徳本委員：**

市の方に何でも甘えてということではないんですが、例えば小規模転入制度というのがありまして、小規模校に呼び込みたいと思ったときに、子ども教室ってすごく魅力的なんですよ。そういうことに力を入れるための子ども教室という制度なのかなという理解をしているんですが、それが放課後児童クラブという風に名称も制度も金額も違いが出ているということは、行政としてはそこまでの意図はないということなんじゃないかな。

**川口委員：**

子ども教室と放課後児童クラブって違うものなんですよ。

**河口課長：**

そうですね、基本的には放課後児童クラブというのは保護者の方で運営していただいている団体です。子ども教室というのは、児童クラブになかなかできない小規模の学校について、市の方が、放課後児童クラブに似たような取組をしているものです。放課後児童クラブはある程度の保護者さんが集まらないとできないんですが、そういったところではなかなか保護者さんが集まらないので、市の方が手を出してやっているというものです。そうすることで全体として受け皿を確保していくという仕組みになっています。ですから子ども教室については市のやり方で引き続きやっていかなければいけないのかなと思っておりますし、放課後児童クラブの方は委員長がおっしゃられたように、保護者の方が主体でいろいろな考えを持っておられますので、支援員の時給についても議論はしていただけます。そういったところでそれぞれ違いが出てしまうかなとは思いますが。

**山下恭史委員長：**

あまり時間はありませんが、その他いかがですか。良ければ私から。この個別意見等

の5番のところに、「何とか大人が手を差し伸べられるような環境づくりをしていただきたい。」というご意見がありますが、具体的なイメージがちょっと湧きづらいような気がしまして。

**徳本委員：**

ここは私が言ったところです。今、限られたスペースの部屋に子どもたちがたくさんいて、勉強したい子と遊びたい子が入り混じっている状態なんです。こういった中でいじめのようなことも起こるんだけど、支援員も人数が少なくて気づかないこともあると聞きました。ちゃんと目配りができる人員の数とかクラブに適した広さの場所の確保とか、そういう環境づくりという意味で書きました。

**山下恭史委員長：**

ありがとうございます。そうすると先ほどの話にもつながっていくんですけども、基本的にはまず保護者さんがしていくことになるので、人員が少ないのであればやはり保護者が集まって、もう一人増やそうという話もできるはずなので、ここで言われる環境づくりというのは、鳥取市がすることではないように思うのですが。

**徳本委員：**

そうなんですか。

**山下恭史委員長：**

先日も話にありましたけど、外部環境というのは別だと思えます。場所がないとか、教室をさらに一つ増やそうとか、あるいは他の施設を探してみようとか。こういうことは別なんですけど、中の運営のことで、保護者会からそういう意見が出てきていないのに鳥取市の方で人増やしていくということはちょっと違うような気がするんですが。ですから先ほど言ったように保護者会でまずは考えて、あるいはNPO等に委託しているならそこと話をして、じゃあこういう風にしましょうというやり方になるんじゃないかなと思います。

**徳本委員：**

そういう役割分担なんですか。

**河口課長：**

おっしゃられるように、例えばすごく狭いところに子どもたちがいるというようなところについては市の方が環境改善というのをやっていきます。そういったご意見は要望書の中で出てきていますので、子どもの数が多くなれば2つ3つと分けたりして、環境をできるだけ良くするよう市の方で動いてやろうと考えていますし、保護者からの意見は可能な限り実現しようと思っております。ただ委員長がおっしゃられた児童クラブの中の、例えば子どもたちのいじめというような問題を提起するのに、市の方が直接保護者会に入って、ここにはいじめがあるようですから、というのはなかなか言えませんので、そういう部分については保護者会で少し話していただいて、市の方に支援員を増やしたいということも相談していただいて、担当課も一緒になって解決に向け

て話し合いをするというやり方をしております。ですから市が問題を解決するためにいきなり入るというよりは、まず保護者の方がいろいろ考えていただいて、市の方がどこまで支援できるかは協議させていただくという流れで進んでおります。

**徳本委員：**

分かりました、そういう住み分けということですね。

**河口課長：**

はい。そういう住み分けをさせていただいております。

**山下恭史委員長：**

この個別意見等のところはあくまでも鳥取市に対してこうしてくださいとか、こうすべきじゃないですかというような、言ってみれば提言の部分なので、そういう意味では今の表現はちょっとわかりづらいように思います。これでは担当課が「大人が手を差し伸べられるような環境づくりをしていただきたい。」と言われたときに、何をするかというので悩んでしまうかも知れないですね。例えばこの3番にある「支援員の資質向上を図って」というものであれば、ヒアリングの時に研修を受けられる人数が足りないということもありましたので、市の研修で対応できるなどおそらく担当課の方も考えられると思います。このように具体的に何をしてほしいか、あるいは何をすべきかというのがわかりづらいように感じたので、伝わるような表現にしてはどうでしょうかと思ったところです。

**徳本委員：**

場所と人員のことに関しては鳥取市も関わるということであれば、ここの意見は消してしまってもいいと思います。

**山下恭史委員長：**

よろしいですか。ではここは削除させていただいて、他には何かありますでしょうか。無いようでしたら次に進みたいと思います。10 ページについて事務局からご説明お願いします。

**岩田主任：**

それでは10ページの、すごい！鳥取市婚活サポートセンターの運営についてご説明いたします。

(資料「第6次鳥取市行財政改革大綱実施計画外部評価結果報告書(案)」P10を説明)

**山下恭史委員長：**

ありがとうございました。これについてはどうでしょうか。副委員長はヒアリングの時に少し考え方が変わってきたというご意見でした。私はあまり変わっていないと言ったんですけど。全体の総評を議論する前に個別意見等のところを見ていただきたいのですが、2番に「40代以上の婚活支援にもぜひ力を入れていただきたい。」というご意見があります。ごもつともだと思うんですが、今の制度ではちょっと難しいのではないかなと思っております。今のイベントがパーティ形式のやり方で、内容としては料

理とかスポーツとか趣味をベースにして色々なことをされていますけど、この年代になるとちょっとこういうやり方でないんじゃないかなと思いました。県のえんトリーのような、一人ひとりがどういう相手を求めているかということに合わせたやり方をしていかないとなかなか難しいのではないかなという気がしております。もし、こちらのご意見を書かれた人がおられればこの意図をお聞かせいただければと思います。

**田村委員：**

ここは私が書かせていただきました。やはり成婚組数を実績として取っていきたいということになると、言い方は良くないかもしれませんが、ある程度切羽詰まった年代の方々に対するアプローチっていうのは有効かなというところがあります。実際に支援が必要な方々というのは35歳以上とかそういう方々になるのかなと思ったので、そういう思いで書かせていただきました。

**山下恭史委員長：**

なるほど。そういう年代の方々と私も何人か意見交換をしているんですが、先日のヒアリングの時に副委員長も言われていましたが、ある程度お金を出してやっていくという形にどうしてもなってしまうんですね。その形式というのは今の鳥取市の形式ではたぶん増えないと思います。ですからそのやり方としては県のえんトリーの方できちんとお金を払ってやっていくということになりますし、民間の何十万円というところに登録して結婚に至ったという人も知っております。そういうことを見ていると、年齢が上がってくると相手の選択というのも男女ともにシビアになってきますし、ある程度お金をかけてでもちゃんと自分に合う相手と出会いたいということになりますので、パーティ形式とか趣味というものではちょっと難しいかなと思います。この意見を削除しましょうとかそういう意味ではないんですけれど。

**田村委員：**

お金がある方はそういうチャンスを掴みに行くことができると思うんですが、行政がする以上は広くチャンスを与えられるものとしてあってもいいのかなと感じます。

**山下恭史委員長：**

はい、ありがとうございます。他の委員さんからも何かありますか。

**山下博樹副委員長：**

よろしいですか。40代以上もターゲットにということであれば、それに合わせたやり方を考えていけばいいのかなと思います。ですがちょっと気になったのが、この取組の目的が少子高齢化対策ということでしたので、そういう意味ではあまり上の年代だと悩ましい部分もあるかもしれません。もちろん結婚自体はその後の生活とか老後の支え合いとかいろいろあると思いますけれど、純粋に市が掲げる少子高齢化対策として見るといろいろな考え方があるのかもしれない。

**山下恭史委員長：**

ここの取組については私は本当に見直したほうが良いなと思っているので、民間事

業者の取組もたくさん調べているんですが、ある民間事業者さんがやっているのを見るとカップルの成立数って1桁違うんですよ。ここ2〜3年で始められたところで新聞チラシにも入っているところですよ。ヒアリングの時に行政がやっているから安心して登録できるということが言われていました。まあそれもあるかも知れませんが、そう考えるとじゃあなぜ登録者数が大きく増えていないんでしょうか。実際の数字を見てみますと平成27年度の登録者数は1,081人で、平成28年度は1,433人、平成29年度は1,671人、平成30年度は2,042人。安心感があるということであればもっと登録者が増えてもいいはずなんですけど、こういう状況です。民間の方はどんどん会員数が増えていきますし、県のえんトリーは成婚数も上回っていますので、こう考えると本当に続けるのが良いのかと思ってしまいます。

**山下博樹副委員長：**

ちょっと誤解をされないようにお伝えしたいのですが、前回のヒアリングで担当課の説明を聞いたときに私が肯定的なコメントをしたのは、前期の委員会でこの取組はやめたほうが良いとかなり強く言ったにもかかわらず、やめられずに続けますということでしたので、これはやめる気がないのかなという思いが前提としてあって、そのうえで続けてきたという内容を聞いたところ、前期の時に比べればいろいろ工夫されてきたんだなというところを評価した言い方でした。基本的に費用対効果の面から言えばやはり課題は大きいということに変わりはないので。

**河崎委員：**

私も副委員長の言われることに賛成でして、前期に私も反対をしたんですが、今の総評だけを見ると「また、継続にあたっては」と書いてあるんですけど、そもそもやる必要があるのかというのを前段に押し出したうえでもし仮に継続するならというくらいで。本当は継続というのは考えられないかなと。

**山下博樹副委員長：**

そんなに積極的に頑張ってくださいというものではないですよ。

**河崎委員：**

個別意見等のところにはこうやったら良いというような前向きなものも出ていますけど、これはあくまで続けるのであればというところの意見なのかなと思います。

**山下恭史委員長：**

例えば個別意見等の3番は私の意見なんです。この意見の背景として、行政ってどういふことをやっているのかなというのをたくさん調べました。そうしたら地元のNPOと一緒にやっていたりとか、それから移住相談とありますけど、ふるさと回帰センターというのが有楽町にありましてそこはいろんなイベントをマッチングさせて施策を打っておられるという事例があります。それと比べたら、今と同じようなやり方であれば単独の民間事業者とほぼ同じようなことなので、やめたほうが良いんじゃないでしょうかと思っています。ただそうは言っても婚活サポートセンターの会員管理のシステム

を去年か一昨年かにお金をかけて改修されているので、それを捨てるのもどうかなという気持ちがあるので、だったらこういうやり方もあるんじゃないですかという気持ちで書いているのがここなんです。先日のヒアリングの時も言いましたけれど、市の職員さんは 0.1 人役しかかかっていないので丸投げじゃないですかと話を出しました。本当に取り組むのであれば、本気で考えていろんな施策と組み合わせて、移住ということもあるでしょうけれどその他にも起業とマッチングして I ターンで来てもらうという取組例もあるので、こういうことを経済観光部だとか農林水産部と一緒にやって取り組んでいって、全体で考えるということをしていかないと、単に委託事業者に任せているだけでは、いくら麒麟のまち圏域に広げましたと言ってもそれはできないと思います。当然民間事業者が他の部署に相談に行っても、その担当課は何のことだろうとなるわけですから、それは行政がきちんと自分の部署だけでなく他の移住対策や起業支援をされる部署と一緒にやって連携しながら組む施策の中の一つのメニューとして、この婚活があるということにするとかそういうことがいるのではないかと思います。やめられないのならこういう工夫をされたらどうですかということです。

**山下博樹副委員長：**

でも今の、投資したからやめられないという理屈をいつまでも言っていてはと続いただけです。

**山下恭史委員長：**

そうしたら違ったものにならずにこのまま流れていくだけです。以前は議会や地域の懇談会で必要だと言われるからというのが主な理由だったので、それは行政としてはやめづらいんだろうなと思ったんですが、この実績を見たときに本当に予算をここに使っているんですか、優先順位ってないんですかという思いがしております。

**山下博樹副委員長：**

委員長がそこまで強く思われているのであれば、総評のところにもっとそのニュアンスを書かれても良いかもしれませんよ。

**河崎委員：**

それを入れたほうが良いと思いますけど。

**川口委員：**

この委託事業者を選ぶときはプロポーザルか何かされているんでしょうか。

**山下恭史委員長：**

しておられるはずですよ。

**川口委員：**

複数挙がってきているんでしょうか。

**山下恭史委員長：**

そこまでは私もちょっと聞いてはいませんが、事業者さんとしてはしっかりした事

業者さんなんだけれども、限界がありますので。連携しようと思っても、例えば県との連携も事業者さんだけでなくて鳥取市がやらないと乗ってこないでしょうし。だから一緒になって、0.1人役じゃなくてももう少し人を増やすとか、本当にするならもっと本気になるような施策を組んでもらう必要があるなと思います。

**川口委員：**

そうするとここは取組の必要性というよりも運営方法の抜本的な見直しみたいな感じになりますか。

**山下恭史委員長：**

何年間だったかはわかりませんが業務委託の期間というのがあります。それが2年なのか3年なのかはわかりませんが、たぶん単年じゃないと思うんですよ。たぶんですが。そういうこともあるので、途中でこんなことはやめてこういう風にやりなさいというのは、事業者さんとしては契約のこともあるので難しい面もあるのかも知れませんね。だから新しいことをしようと思っても実際のところはすぐにはできないかもしれないです。ですが少なくともこんなことをしていこうという未来像が見えてこないのが不満な点かなと思います。この婚活サポートセンターができてから4年半で成婚が15組ですから。

**河崎委員：**

現状その15組もどこに住んでおられるかまでちゃんと追えていないと言われていましたし。

**山下恭史委員長：**

それと個別意見等の4番にある「目標及び取組内容の見直しが必要である」というのは意味合いとしては他のところにもあるので、文章を包含してしまえたらと思いますがいかがでしょうか。

**河崎委員：**

総評のところは委員長の言葉で厳しめに書いていただければ無くしても良いかと思えます。

**山下恭史委員長：**

ではこちらは外させていただいてもよろしいですか。趣旨は取り入れた文章にします。実際の書き方に関しては事務局の方と相談したいと思いますのでこちらにらせていただいてもよろしいですか。これまでの議論もありますのでやめるべきだという書き方はしませんけれど。

**山下博樹副委員長：**

私たちのように前期の委員会から引き続き残っているメンバーはやめるべきだというような言い方もしてはいるんですけど、まだこの取組を続けたほうが良いんじゃないかと思っておられる方もいらっしゃるかもしれませんので、一応委員会としては確認しておいた方が良くないでしょうか。

**河崎委員：**

そうですね、それは聞いていただいた方が良いと思います。

**山下博樹副委員長：**

それを確認していただいて、もしも皆さんが本当はやめるべきだと思っているのであれば、どうせ続けるのだからということではなく強い意見として言うというのは必要かと思います。そこまで私たちに強制力はないにしても。

**山下恭史委員長：**

ではやめるか存続するかの二者択一で聞いてみましょうか。存続と思われる方いらっしゃいますか。

**委員一同：**

(挙手なし)

**山下恭史委員長：**

存続というご意見はなさそうですね。

**山下博樹副委員長：**

満場一致でなければいけないということではないので、遠慮されずに思ったとおりに手を挙げていただけたら。

**山下恭史委員長：**

基本的に施策ってなかなか変わらないんですよ。やめるべきだとはとりあえず書くんですけど、続けるんだったらこういうことに力を入れてくださいと、こういう書き方をしようかなとは思っています。やめなさいというだけでは、これも説得力がない話になるので。

**山下博樹副委員長：**

ただ行政からすれば、必要だと思って始めたことを自らやめるというのは、自分達のやってきたことを否定することにもなるしなかなか難しいですよ。そういう点では我々のような外の力を借りてやめるきっかけにするということも必要かもしれません。

**山下恭史委員長：**

小草委員さんはどう思われますか。

**小草委員：**

思ったこととしては、民間の婚活の成婚数が伸びているということでしたけれど、それは実績が見えているからじゃないかと。実績が例えば年収 1 千万円の人と結婚できましたという人がいっぱいいたら、どれだけお金かけたとしてもそこで婚活したくなるかなと思います。そうした実績が行政だったら見えにくいかなと思うところがあります。それから、移住とかと組み合わせて婚活に力を入れていくというのは民間じゃなかなかできないので、行政がすべきかなと思う面もありますが、もしそれを続けていくのであれば、婚活したい人が増えるように、数字では図りにくいかもしれないけれど生活がこんなに良くなったというのをアピールしていった婚活したいなと思う人を増

やすのが第一じゃないかなと思いました。

**山下恭史委員長：**

生活が良くなったというのはなかなか難しいですね。その測り方が。

**小草委員：**

難しいですね。

**山下恭史委員長：**

幸せな気持ちにはなるかもしれませんが。

**小草委員：**

婚活したいと思わせるというのが難しいかもしれないですけど。

**山下恭史委員長：**

質を求めていくと施策的にはもっと難しくなりますよね。

**山下博樹副委員長：**

質って難しいですね。

**山下恭史委員長：**

ありがとうございました。では時間のこともありますので、ここについては総評も含めてお任せいただけますか。最終的には次回にもう一回ご議論いただこうと思いますので。では次の 11 ページについて説明をお願いします。

**岩田主任：**

それでは 11 ページの、鳥取砂丘・いなば温泉郷を核とした観光ブランドの確立についてご説明いたします。

(資料「第 6 次鳥取市行財政改革大綱実施計画外部評価結果報告書(案)」P11 を説明)

**山下恭史委員長：**

はい、どうもありがとうございました。これについてのご意見等をお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。では少し考えていただいている間に私から一つ。総評は「引き続き取り組みを進めていただきたい」となっているんですが、これだと従来どおりの施策になりそうなので、この実施計画の手段は地域連携 DMO「麒麟のまち観光局」の設立・運営支援ということなので、DMO との連携をより密にしてより効果的な方法でとか、総評としては少し長い気もしますが、そういうことを考える余地があるかなと思いました。といいますのが、個別意見等の 4 番に「情報発信や観光商品の造成については不十分ではないか。」と書いてありまして、これは実は私が書いたんですが、正直「不十分ではないか」ではなくて「不十分である」と思っております。私が DMO と情報交換をしたときに出た話が、城崎温泉や湯村温泉のお客さんがかなり鳥取に来られているということでした。これはデータとしてスマホの GPS 情報を DMO が持っておられて、それを見るとかなりのお客さんが来ているということだそうです。そういうところも、市と連携したいという思いをもっておられます。やればいいと思うんですけど。そういうことであつたりとか、今の訪日外国人旅行者の情報源が何なのかということ

57%がスマホ、タブレットなんです。これは観光庁から資料が出ていますけれど、6割近くがそういうインターネット関係になっているにもかかわらず鳥取市ではまだ十分にできていないと思います。DMOでもまだ分析しているだけなので。今までどおりのやり方では遅いんじゃないかなと、実際の外国人の消費動向調査では出ております。さらに外国人旅行者の旅行形態とか手配はどうしていますかというのが同じように出ていますが、最近の7割近くがWebでやっておられます。団体旅行は別ですが、そもそも団体旅行が2割弱になっていまして、8割以上が個人旅行になっていますので。その人たちが何を使ってどこに行くかを調べるかというところがWebで、その手配もWebでやってしまいます。そういった観光客の動きを見据えた動きに多分なっていないんじゃないかなと思っています。ということで、取り組みのウエイトの置き方を変えないといけないんだろうなと思っています。現状のところにはいろいろ書いてありますが、こういうレベルのこともあるかも知れませんが、さらに新しいお客さん、特に外国人旅行者を含めたところで誘客しようと思ったら、新しい手段への取組というのをやらないと増えてこないと思いますので、そういう書きぶりをどこかにちょっと入れておきたいなと思います。ヒアリングの際には私もデータを持っていませんでしたのであまり言えていませんでしたけれど、その後いろいろ調べるとちょっと、せっかくDMOも設立したので有効活用して、国内旅行者もそうですけれど外国人旅行者を呼び込む手段を考えていかないといけないんじゃないかなと思います。

**河崎委員：**

委員長のおっしゃるとおりだなと思いつつながら、これを評価する難しさでもあるんですけど、実際にこれを評価しているのは平成30年度実績に対してでして、この外国人の集客等も含めてすごく変化の激しい業界だと思います。ですから今年度の取組をみるとひょっとしたらこの麒麟のまち観光局もそういったことに取り組んでいる可能性もあるかなと思います。この平成30年度の資料だけを見ているとその時点の評価にはなるんでしょうけれど、実はちょっと聞いたところによると、新聞社と連携して観光地の写真とか観光情報の記事などをとりまとめているということもされているようです。ひょっとしたらそれをネットにアップして外国人向けに発信するというのもしているかもなどは感じていますので、平成30年度の実績だけを見ながらの評価というのはちょっと難しいかなと思います。

**松本委員：**

この「麒麟のまち観光局」にはうちからも人を出してやっているんですが、実際にはかなりしんどい中でやっているという感じは聞いています。個別意見等の4番にもありますがロゴを公表したりしてまずはイメージ作りからしているという状況で、観光局のスケジュール感の中ではまだ途中段階であったということもあるかなと思います。ただ、ここに併せて書いてあるように情報発信っていったい何が変わったんだろうというのが、市民の皆さんの意見なんだろうなと思いますし、それは観光局側もちゃんと

感じていると思いますので、現時点での評価としてはこういった形になってくるのかなと思います。

**山下博樹副委員長：**

今更こういうことを聞いて良いかわかりませんが、地域連携 DMO「麒麟のまち観光局」と、鳥取島根でやっている広域連携 DMO「山陰インバウンド機構」というものの連携の仕方だとかあるいは役割分担ということも必要だと思うんですけど、両方で同じようなことをやっても効果はなかなか上がらないのかもしれないし。そういうところはどうかされているのかなと。

**山下恭史委員長：**

同じようなことはやっていないですね。「山陰インバウンド機構」はもっと大きなことをやっていますし、こちらの東部圏域のことについてはほとんどやっていないと言っても良いかと思います。

**松本委員：**

県内の東部、中部、西部に地域連携 DMO があって、西部はどうだったかはっきり覚えていませんが、確かその上の包括的な位置づけで「山陰インバウンド機構」があったように思います。

**山下恭史委員長：**

東部圏域のことはほぼやっていないし、連携もそれほどという印象があります。

**山下博樹副委員長：**

2～3 年前に「山陰インバウンド機構」がフランス人のグループを佐治の飲食店に連れてきているのに偶然出くわしまして、こんなこともやっているんだなと思った記憶があるんですけど。こちらの方はあまり力を入れてもらえてないんですね。

**山下恭史委員長：**

山陰ですから島根の方もありますしね。

**山下博樹副委員長：**

でも広域連携をする目的なのにエリアを狭められてしまったら鳥取県も支援している意味がなくなってしまうですね。

**山下恭史委員長：**

他に皆さんからご意見ありませんか。無いようでしたら少し連携強化といったあたりについて文章を追加しようと思いますので、それによろしければ事務局と相談して、次回見ていただけるようにします。では最後の 12 ページの説明を事務局からお願いします。

**岩田主任：**

それでは 12 ページの、利便性が高く効率的な生活交通網の構築についてご説明いたします。

(資料「第 6 次鳥取市行財政改革大綱実施計画外部評価結果報告書(案)」P12 を説明)

**山下恭史委員長：**

ありがとうございました。これについてのご意見があれば伺います。

**山下博樹副委員長：**

よろしいですか。ヒアリングの時には個別意見で特に挙げておりませんでした。バスの維持についてはドライバー不足がかなり深刻であるという話を最近よそで聞きました。鳥取市内でもバスが減るといようなニュースが報じられるのを見ると、利用者の減というものもあるのかもしれないけれど、ドライバーが決定的に足りなくなっていて、それが人数的に満たされることで改善されることがあるなら、ドライバー育成のようなものを市が後押しするだとか、そういうこともあってもいいのかなと思います。利用者を増やして採算を上げてバスを維持したり便利にしたりということも正攻法ではあるんだけど、人口がこれだけ減っている中で利用者を増やしていくというのなかなか難しいことかとも思います。そうであれば、ドライバー不足が響いているというところくらいは行政の後ろ支えで改善できることなのかなと思いました。

**山下恭史委員長：**

他に皆様から何かありますか。この実施計画についてはヒアリングの時もそうだったんですが、なかなか資料をもらっても現状が分かりづらいというものでした。デマンドや定期運行の実態も複雑でしたが、先ほど副委員長からありましたようなドライバーが少なくなっているということもそうですけれど、今やっておられる補助をして路線を維持するとか地域住民をデマンドで乗せていくというような制度がいつまで続くのかというようなどころもあります。それから来年度には国の新しい施策があります。有償運送の制度として今までは地域住民を対象としたもののみが認められていましたが、観光客を対象としたものも認めていく方針が発表されていきました。ちなみに観光客向けのものとして、ある団体でGバスという取組をされていますが、40人乗りのバスに実際乗っているのが1人とか2人とか。ちょっともったいないなと思ってしまいますがそういう制度なので乗客を募集して走らせています。何が言いたいかというと、一つの課だけで考えるのではなくて、複数のものを組み合わせていったり活用したりしていく必要があるのではないかと思います。今お話しした観光向けのGバスであるとか、あるいは高齢者対策など福祉保健部のところは別途政策課題があると思うんですけど、そういうものも含めて考えていかないといけないんだろうなと思います。結論としてどうすべきかということはなかなか言えないんですが、これだけ人口減少が想定されている状況にあっては、先ほど副委員長が言われたようなことも一つですし、今ある制度をもう少しきめ細かく活用していく手段、そしてさらには地域住民による有償運送のようなものを育てていって、地域で助け合っていくということをしていかなないと、事業者の採算ベースだけでは撤退したり路線の便数が少なくなったりという方向になってくるのかなと思います。他にどなたかから何かありますか。

**河崎委員：**

なかなか難しいですね。

**山下恭史委員長：**

そうですね。これについては、先ほどの副委員長のお話や、地域との連携や施策の連携というのも国の方向性と合っていると思いますので、このあたりを少し付け加えさせていただきます。もちろん運送の安全管理というのは大前提としてあるんですけど、やはり効率的・効果的な配車といいますか、無駄のない仕組みを構築するというのが最適などころではないかと思います。他に追加のご意見がなければ次の議事に移りたいと思いますがどうでしょう。

**山下博樹副委員長：**

一つだけよろしいですか。交通政策という形で市役所が事業としてやろうとするとこういうメニューになるんですけど、例えば欧米などでよく聞くのは、近所の人に頼んで相乗りさせてもらったりしてお互いに助け合うような取組がされています。そういうことを、ここからはこの場の思い付きでお話ししますが、地域通貨のようなものを交通に困っている人たちが使えるようにして、それを近所の人に乘せてもらうときに支払って、乗せた人もその地域通貨を何かの時に使えるというような仕組みを作るとか。これは交通政策というよりも地域のコミュニティ的な話かもしれませんが、そういう今までとは違った発想も含めて考えていかないと、今の鳥取の状況では打開策というのは難しいのかなと思いました。

**山下恭史委員長：**

ライドシェアとかですね。それも盛り込んでみましょう。ではこの実施計画についても最終的な書きぶりを次回見ていただくことにしたいと思います。ではこれ以外に全体を通して言い残したことなどがあればお伺いします。皆様からは特にありませんか。無ければ、実は私がどうしても気になる場所がありまして、大綱の総合目標との関わりのところなんです。これについてはあまり触れてこなかったのが皆様覚えておられるかどうかということなんです。第6次行革大綱には総合目標として「税収254億円以上の実現」、「ふるさと寄附金4億円以上の実現」、「15歳以上40歳未満の転出者数を転入者数の範囲に収める」という大きな目標があります。これを目指しながら個々の取組を積み上げてきたということでもあります。必ずしもリンクしていないと思う部分もあるんですが、そのようにやってきたので、何らかのコメントをこの報告書のどこかには入れたいなと思います。総合目標が設定してある以上、本来、大綱の最終評価としては積み上げた結果どうだったかという視点もいると思うんですが、この委員会としては十分に議論はできなかつた、その程度でもいいので少し入れておきたいなと思います。実績値が見込みでもまとめればそれも入れたうえで、議論できなかったという反省点としてまとめて最終報告書と出来たらいいかなと思います。一応、前課長さんからはこの総合目標を念頭に議論してほしいと言われた記憶がありますので触れておき

たいかなと思います。

では良ければ本日の最後の議事に移ります。(3) 市政改革プラン(最終案)についてご説明をお願いします。

**谷口主査：**

それでは市政改革プラン(最終案)について説明させていただきます。

(資料「市政改革プランについての意見」、「市政改革プラン(最終案)」、「実施計画一覧」を説明)

**山下恭史委員長：**

はい、どうもありがとうございました。これまでも何度か見ていただいて、ご意見もいくつか出していただいております。これ以降は大きく修正してもらおうというのは難しいかもしれませんが、委員の皆様から何かあれば言っていただけたらと思います。松本委員さんいかがでしょう、何かありますか。

**松本委員：**

私が出した意見については、先ほどの資料「市政改革プランについての意見」の中でご回答いただけているので、言いたいことはここで言えているかなと思います。

**山下恭史委員長：**

はい。他にありますか。まだ資料を読んでいただいているところかと思いますが、その間に私の方から。個別の実施計画についてはいろいろなことを考えられて、他の自治体も参考にしながら必要なものは盛り込んでいただいたり、鳥取市用にカスタマイズされたりしているんだらうと思いますので、様々なことがもれなく入っているのかと思います。お話ししたいこととしては、以前からもそうなのですが、この委員会として関わっていくときに、進捗管理がきちんと出来て、そのうえでこの事業はさらにスピードアップしないといけないとか、施策自体を修正しないといけない、追加しないといけない、場合によっては中止等の判断もしないといけないということが、5年という計画期間の中では出てくると思います。その判断が的確にできるような年度計画や指標、数値目標というのが不可欠なだらうと思います。よく PDCA を回せといわれますが、意外と回っているようでの的確に回っていないと言いますか、民間の回し方と少し違っているなど感じます。民間はそれがすぐ収益に繋がったり、評判が落ちれば経営者の交代であるとか、株価に影響したりということで危機感を持ちながら進捗管理とか施策の実施をしているのですが、実績が上がっているのかどうかや計画期間の最終目標に向かってきちんとステップを踏んでやっているのかということを知るようにするのが必要だと思います。市の職員さんは異動がありますので人が変わっても分かるようにしておく、あるいは上司が見てもちゃんと分かる、さらに上のレベルの方が見たときに、全体の中でこの施策が弱いんだとか、さらにここに手を打った方がより効果があるということが分かるように、ぜひ運用の中でしていただきたいなと思っております。それと、市の経済成長プランというのがあって、あちらには結構細かい指標が

出ていますよね。まあ行財政改革の視点と違うとは思いますが、最終的に目指したいところは一緒だと思います。それから連携中枢都市圏になったときの90の連携事業があったと思うんですが、その内容がどうも見えてこないというのがありました。行財政改革大綱に直接リンクはしないんですけど、どこかでは繋がる場所があると思います。何が言いたいかというと、表現の違いはあっても同じ施策が別々の計画で進んでいくことがあります。総合計画の評価と行財政改革大綱の評価で二重に資料を作ったりとか、別々の外部委員会で同じ事業に対して相反する意見が出たりということも経験しておりますので、ぜひそういう部分を合理化してスピーディかつ有効に政策決定ができるような運用をお願いしたいと思います。

他の方から何かあれば。そうしましたらここで本日の議事は終了いたします。

#### 4. その他

##### 山下恭史委員長：

では、では事務局からその他として何かあればお願いします。

##### 岩田主任：

今後のスケジュールを簡単にお話しさせていただきたいと思います。今日いただきましたご意見を踏まえまして、委員長とまた報告書の中身を詰めさせていただきます。最終の委員会は3月16日に予定しております。そこまでにこの報告書の案を出させていただきますので、そこで皆様から再度意見をいただきまして完成という形になります。その後、委員長、副委員長に委員会を代表して市長へご報告いただきましてこの委員会としては完了となります。

##### 山下恭史委員長：

はい、今ご説明いただいたように次回は3月16日に第10回の委員会を開催いたします。その時には報告書の最終案の決定をしたいと思います。そしてこの委員会はここで終了になりますので、次の委員会への申し送りのようなものができたらと思います。皆様2年間やっただいて、委員会の運営はこうした方がさらに良いんじゃないかとか、こういうテーマを議論したほうが良いということを挙げておくということでも何でもいいと思います。次の委員会の立ち上げに向かってのご意見を聞かせていただいて、実際にそうされるかどうかはその時の委員会の判断にはなりますが、一応のけじめとして、我々の思いを事務局を経由して次の新しい委員会に引き継ぐことができたらと思っております。

##### 河崎委員：

その次年度への申し送りは、又事務局からメールか何かがあってそれに返したらいいんでしょうか。

##### 山下恭史委員長：

それは最後の委員会の場でお伺いしたいと思います。その他は何かよろしいでしょ

うか。事務局からも何か最後にございますか。

**河口課長：**

簡単によろしいですか。いろいろとご審議いただきましてありがとうございます。聞きながらいくつか思うところがありました。特に婚活については以前から廃止というご意見もいただいておりますので、そのようなご意見も踏まえながら検討してまいりましたが、総務企画委員会という別の外部委員会がございまして、そちらではどちらかという婚活事業に前向きと言いますか、そういうところがあってさらには議会からも前向きなご意見がありましたのでその調整がなかなか難しいというところがありました。ただ、費用対効果についてのご指摘はごもっともですので、この委員会からの思いはしっかりと市長に届けていただけたらなと思います。それから放課後児童クラブについてもいろいろご意見をいただきました。市としてはやるべきことがまだたくさんあると思いますので、ご意見はしっかり受けてやれるところはしっかりやっていきたいと考えております。ただ保護者の方でやっていただく部分については一緒になってやっていけたらと思います。交通政策についてもご指摘をいただきました。今、来年度の予算を編成しているところでして、ドライバーの育成なども新たな事業で取組をしておりますので、またそのあたりも見ていただけたらなと思います。それから委員長が言われました総合目標についてですが、市税の状況については昨年度の237.3億円からさらに伸びてきておまして少しずつ目標に近づいています。ふるさと寄附金も3.7億円ほどまで来ておまして、これも皆様にいろいろご議論いただいたおかげかなと思っております。次のプランでは基金を総合目標として取り組んでまいりたいと考えております。今日は本当にありがとうございました。最終の委員会がまだございませうけれど、ぜひ次につながるようなご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

**5. 閉会**

**山下恭史委員長：**

そうしましたら、これで第9回の委員会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

---